

II バクーニンと日本

1 バクーニン紹介の起源

萩原晋太郎『アナキズム運動年表』は一八八二年から筆を起しているが、第一ページの冒頭を占めたのが東洋社会党であった。

4・18 橋井藤吉ら七〇七八〇名が「東洋社会党」を結成。7・7 禁止された。綱領や盟約はスチルナーのアナキズムによつている。

この記述からすると、バクーニンよりもスチルナーが時間的に先に日本へ移植されたことになるが、バクーニンの名前が日本へ伝えられたのはいつごろのことであつたか、若干考証してみたい。これについては、たとえば『日本社会主義文献解題』にみられるごとく、西川通徹訳の『露國虛無党事情』（明治一五年）によつてマルクス、クロボトキンとともに初めてバクーニンの名前が日本へ伝えられたとする定説があるが、この定説は確実に誤っている。

近年になつて復刊された資料だけからしても、バクーニンの名前を日本へ最初に伝えたものを明治一四年四月

の『六合雑誌』にまで溯及することができるのであるが関係箇所は次のとし。

露國虛無党ノ一人ニテ、流罪ニ処セラレ、サイベリヤニ送致セラレタルモノ、同處ヨリ逃亡シ、ゼニバ府ニ来リ、同處ニテ新ニ万國党ノ一派ヲ結合シタリ。比党派ハ就中其主義尤モ過激ナルモノトス。比者ハ名ヲミケル・バクニント云フ。

これは小崎弘道「近世社会党ノ原因ヲ論ズ」の一部分で、万国党とは第一インタナショナルのことである。（右の引用では現代風の漢字に改めてある。）

今のところ小崎論文までさかのぼることができたのであるが、翌明治一五年七月一日の「朝野新聞」に発表された城多虎雄『論歐州社会党』に「有名ナルバクニン」という表現があることを考えるとき、明治一五年にバクニンの名前はかなり人口に贈炙していたと思えるし、小崎論文前後にもバクーニンを伝えたものがあるようと思える。たとえば明治一五年の宮崎夢柳「寃の鞭枉」

若山健二

(「絵入自由新聞」)。

マルクスの方も右の論文でバクーニンと同時に伝えられ、この論文がバクーニンとマルクスの移入史の起源であろう。

単行本に限つてみると、バクーニンは西川訳述書であるが、マルクスの場合、久松定弘『理想境事情』一名『社会党沿革』(明治一五年二月)を嚆矢とすべきではなかろうか。もつともこの書物では「マルクス」ではなく「マルキス」であるが、同一人物であろう。これにすこしおくれて、同年九月には大久保常吉編『日本政党事情』がマルケスを伝えており、西田長寿氏の考証によると、久松定弘はデューリングの教えをうけただけでなく、明治二〇年にはその著述を邦訳し、愛読書のなかに例の『哲学教程』があつたというが、歴史の皮肉というべきであろうか。余談だが、デューリングの名はバクーニンやマルクスよりも早く、明治一二年八月二二日の「東京曙新聞」が伝えているが、「ジュウリング」というルビ付で「式隣」であった。外国人名の表記で愉快なのは西川訳述書で、ヘーゲルがヒーゲルとされているのはまだしもショーベンハウアーがスコボンホウエルとされ、語感から微笑を誘われるが、英語読みすると論理的である。その後、ケインズがキーンス、戦後のバクーニン関係か

ら拾うとサジーンがザッシンと伝えられ、バクーニンとは関係ないが最大の傑作はオルテガ・イ・ガセットを、「オルテガとガセット」とする訳語である。
バクーニン輸入史のなかの庄巻は石浜知行氏によるアーノルド・ルーゲ宛のバクーニンの手紙の発見である。石浜氏が発見した後、ドラン、ステクロフの検討を経たこの手紙の翻訳と発見のいきさつについては『社会思想』大正一四年二月号にくわしいし、『バクーニン全集』にも一部分の写真とともに同一の訳文が別の訳者名で収録されているが、今はいずれも見ることすらきわめて困難であり、実物の入手は絶望的である。

この機会にアナキズムを無政府主義と訳したのは誰かについての考証を明治文化研究会の諸氏に焦点をあてて調べたが、該当論文は見あたらなかつた。明治が遠くなり、同会の会員がほとんど物故し、広田栄太郎氏も逝つた現在、この考証をできるのは木村毅氏か西田長寿氏ぐらいいであるようと思う。

付記 本文中のスチルナーに関するところ、スチルナ一が紹介されたのではなく、スチルナ一流の思想であつたと訂正すべきであろう。

2 日本に於けるバクーニン研究の書誌

山本一夫

一はじめに

私は、私の編集した「日本におけるバクーニン研究の書誌」を読者が望んでいるものの一つだと思わない。おそらく読者は私をなんと馬鹿馬鹿しいことに労力を消費するのだろうと思うだろう。私も心の一部でそう思つてゐるのだ。私はそう思いつつこんなものを編んだ。今のは、こんなものをこの程度しかできない。残念だけれどこれが事実だ。

私は経済能力を著しく欠いている。具体的に言うと、先年、先々年は年間二、三〇万円しか肉体労働によつてはかせいでいないと思う。また、時間もきわめてずさんなどり方しかできない。作業所もひどい所だ。私自身の能力もあるだろう。そういうものによつてこの書誌はこの程度にできた。

バクーニンをとり上げる今日的意義とか、バクーニンの哲学体系とかは私は必要としない。バクーニンを取り上げねばならない理由などあらうはずがないし、他人の

思考体系など私には興味の起りようはずもないから。

バクーニンのことで私がしばしば腹だたく感じることは、バクーニンを理解すらできない人がバクーニンを恥かしめている事実だ。一体、バクーニンには思想に体系がないとか、未完成の草稿など多数の文章はその時々の運動の必要に迫られて書きかけられたもので、したがつて全体的にはかなりの矛盾、自己どう着と見られる箇所が見出されるとか、よく書ける。バクーニンは王制主義者であつたろうか。一度として心底からキリスト教徒であつたろうか。バクーニンは貫して共和主義者たらんとしたし、共和主義者の立場から政対する革命を説いてきたではないか。バクーニンを非難できる君は日常で共和主義から演えきされる行動よりはざれることなく生活してきたか。君はそもそも共和主義者か。バクーニンは、その革命が民衆の社会意識であることを欲し、その民衆の社会が自由に形成され、形成されているもの

であることを自分の思惟の中に常に色濃く反映させてきた。君は自由が民衆の意識であることを、社会が自由な民衆の意志の表現であることを一貫して表現し、一貫してそのような立場に立つて思惟してきたといえるか。

王制や収奪の原理を身にまとい、利用して生活しながら自由だ、平等だなどいやらしいことだ。

バクーニンをひどく誤解した人の中にはカルロ・カフイロがいると思う。彼はアナキズムと現実の間でアナキストの立場から気が狂い死んだ、といわれているが、彼とバクーニンの出会いの中でカフィエロの事大主義はいやになつてくる。バクーニンはカフィエロの発言にネチャーエフと同じようなものを見ただろう。

三、まとめるにあたつて

私はこれをまとめるにあたつて、どのようにまとめるかで考えた。そのことを記す。

(1)日本語以外の文献は有益なもの、所持するもの、確認しているもの、いずれも記さない。(2)私の所持するものを中心とし、他はあると考えられるもの、他者の所持だが容易に見ることができるもの、を記した。(3)あるらしいことがわかつており、また、以前見たことがあるものも部分的にでも正確なことが記せないものは記さない。

(4)社会運動史、概要などで記されていても、ほとんど記さない。(5)人名辞典、百科辞典など興味あるものもこれ記さない。

三、專制主義に對して

私は專制主義が大きらいた。だからソ連や中国の社会主義は徳川幕府の社会主義と似たものに見えてしかたがない。專制主義が人々の心を卑しく、そして迷信やかなくなさを育てることを知つてゐるくせに、自分の野心やこの方が便利だという手前勝手によつて知らず知らず專制主義が好さな人々は、人の本性の中にあるいはやらしさを、私は提案するが、気づこうよ。奴隸性に反対しながら専制主義がいいと思う人がいたら私には驚異だ。リンカーンとナボレオンは違うし、民主主義とプロレタリア独裁では汚らしさがまつたく違う。

革命家と呼ばれる多くの人々は共和主義者だった。それはカール・マルクス、ガンジーなどもいえるだろう。しかし労働運動家や慈善事業に浮身をやつした人々、研究者などはそうではなかつたのだ。また、大塩平八郎や佐倉宗吾など、ナボレオン、ロベスピエールなど、いずれも比べてみるとよい。なぜマルクスやガンジー、大

塩平八郎、ナポレオンなどがだめだつたのか。それは政治と密着しすぎていたのだ。

共和思想が一つの権威、一つの階級に独占され、政治目的へ収斂された時、それは政治改革へと転換されてしまう。二〇世紀の民衆の悲劇の一つはそのようにしてソ連や中国で成立した。

ソ連や中国の人々は極端な抑圧の中にはなるほど生活していないかもしれない。しかし何百万の人々が肉体を抹殺させられ、今なお抹殺させられる危険の中にいるのだ。土の上に當々と生活する者は政治権力の波にゆらゆら揺れて生きて行ける。また職業も比較的の自由に自ら行うこともできるだろう。それでも他国の人々と知り合いたいという欲望はエスペラントの冷遇や通信に対するスパイなどで明白にさまたげられ、自己の表現は印刷設備の私的所有の禁止をうけ精神生活は重い石を引きずつている。このような国家の政治は政治される国家の人々のみが受ける抑圧だけではない。旅行者や貿易商人は国家の番人にせきとめられ、その利益は国家が独占している。遊牧民族は恣意的に定着させられ、海洋漁業すら制約をうけている。

政治に收斂されたイデオロギーほどおろかしいものはなかつた、といえるだろう。理想主義も権威と権力の中

で行なわれる時、為政者の自己満足にしばしば墮し、権威や権力は抑圧として残るも理想はだんだんと形がい化していくのだ。それは政治の場あたり的発想や行為を承認し、しばしば目先の利益で人類に大きな害悪を及ぼしてきた。

私はいまさら当然のような共和主義を、今ことさら持ち出したのは、それでも政治の中にある共和思想、無神論とか共産主義、そんなのは理想だし、そういうのを主張しないでアナキズムを語るのはいやだからだ。

四、概要

日本ではバクーニン研究が盛んではなかつたし、盛んではない。バクーニンの重要なものも充分には紹介されていない。これは現在でもたいして変わらない。しかし、日本の土の上に生活する民衆のアナキズムは更にバクーニンをよりよく知ることになつてくるだろう。

バクーニンはアナキズムが好きな人々にはよく知られた人だ。そうしてまた、よく引合いに出される。これは明治・大正とつづく一九〇〇年頃よりだいたいそうだ。しかし、その思想は系統立ててはほとんど知られていない。單に行動のみが知られてきたのだ。

バクーニンの研究のようものが日本ではアナキズム

の雑誌とかアナキズムの特集のような時にしか載らないのは不幸なことだ。なぜ一般の雑誌でアナキズムやバク

ーニンが日常的に載らないのか。ここに日本におけるアナキズムの特色が一つあるだろう。もつと端的に言うなら日本人人々はアナキズムをいまだ十分理解していないし、理解しようとしていない。これは将来に暗い影を投げかけるものだ。もしかしたら專制政治の時代がくるかもしれない。日本人人々は政治の力をあてにしたり、自分だけもうけたいというさもしい心の汚らしさにあまり過敏ではないのだろうか。

今でもバクーニンは左翼の一部とアナ系の人々、そして社会思想に興味のある人や哲学に興味のある一部の人々に読まれるだけで、たいてて読まれていない。バクーニンを読むことが必須条件ではないが、自由思想と共和主義を考える時、それらがいまだ日本という地では生活という必然の中に重く埋没している感じだ。

妄 想

私は私のできる範囲でこれを提出するだけだ。皆がアナキズムが好きで、アナキズムを真しに研究しようとすると、すぐくたのしいのだがな。

六 革 命

バクーニンが革命家であり、革命家として行動してきたことは記さなければならない。彼は生涯のほとんどを革命のために費したのであり、他の人々のように女に溺れたり、実業家をきどつたり、詩を作つたり、絵画を集めたりしたことはほとんどないのだ。

政治的共産主義思想家マルクスとバクーニンを語る時、ともすると革命への志向に違いを求めるのではなく、単に革命後の国家、一方が一挙に國家をなくそとし、他方がプロレタリア独裁国家の存在を不可避とするというような違いを出すが、今日のわい曲されたマルクス主義を言うならば、そんなものではない。一方は政治家として支配者になりたいのであり、他方は自己を大衆の中に位置づけ支配のない社会を望むのだ。アナキズムによる革命を忘ることはできない。

「出」され、「子供」も過激の中にある共産思想、政治思想が生まれるが、最初は「出」革命、「子供」このまま転がり出される。

一八八二、一、露國虛無党事情 解題／巷間、本書をもつて日本に初めてバクーニン、マルクス、クロボトキンの名を伝えた、としている。未見。

一九〇三、四、二八 近世無政府主義 東京専門学校出版部 煙山専太郎 解題／バクーニンの名をしばしば記す。それは虚無主義者として、インターナショナルの中で、本書は一九六五年一月十五日、明治文献より復刻出版された。

一九〇六、九、五 革命評論一号 「志士の風 ミサエル・バクーニン」 U R 生
一九〇八、四、五 熊本評論二十号 「バクーニン」 写真
「バクーニン小伝」

一九一三、一、一〇 西洋社會運動史 自費出版 石川三四郎 解題／本書はバクーニンにも紹介をさいていて。なお本書は発売禁止となつていて。以下本書の刊行を少し記す。一九三二、七、一五大鎧閣版。一九二七、四、大鎧閣版。

一九五〇、ハ仁書房版。他に世界社會運動史など類書がでている。
一九二一、五、一五 労働者二号 労働社 バクーニンの写真をのせていく。（一面）

一九二一、「無政府主義の父」 改造 大杉栄 解題／バクーニンのことらしい。未見。

一九三二、一、一 無政府主義の父 東京毎日新聞社 大杉栄 解題／バクーニン伝であり、以後連載されたが、途中で中断される。これは後「二人の革命家」（野枝、榮共著）のバクーニン伝の部分となつたといふ。未見。

一九三二、二、一 労働運動三次二号 労働運動社 「都会人に對する農民の不平」バクーニン 解題／これはバクーニンの「一フランス人に与える書」の一節。
一九三二、六、一 革命の失敗 労働運動社 大杉栄 解題／これはバクーニンの「一フランス人に与える書」を紹介したもの。未見。

一九三二、六、六 二人の革命家 アルス 伊藤野枝・大杉栄 共著 解題／バクーニンとエマ・ゴールドマン伝。前編は「ミシエル・バクーニン其他」。これは「無政府主義の父」「農民問題に就ての一考察」がのつている。
一九三二、一、「バクーニン來航の事など」 新村出 解題／これは後、氏の「南蛮更紗」に載つたものと思われる。「南蛮更紗」は見たことがあるが、上記の文章の載っている雑誌は見たこともなければ、名も知ら

ない。

一九三二、一〇、五 アナーキスト列伝 大鎧閣 遠藤友四郎

解題／この中にバクーニンの項があり、それはネットロウのバクーニン伝を利用したと思われる。

一九三三、一 改造一月号 「マルクスとバクーニン」

大杉栄 解題／「労働運動三次十一号」所載と同じもの。未見。

一九三三、二、一〇 労働運動三次十一号 労働運動社

「マルクスとバクーニン」（上） 大杉栄

一九三三、三、一〇 労働運動三次十二号 労働運動社

「マルクスとバクーニン」（下） 大杉栄

解題／本論文は後、彼の諸著作に載せられている。

一九三四、三、一〇 自由の先駆 アルス 大杉栄 「バク

ーニンの生涯」 解題／これは「東京毎日新聞」に、「無政府主義の父」として連載したもの。これが各種のものに載ることが多い。

一九三五、五、一〇 黒一号 黒発行所 「投票の虚偽」バクーニン、久保訣

一九三五、二、一 社会思想 社会思想社 「新たに発見されたバクーニンの手紙」石浜知行 解題／バクーニンの一八四三年の時の手紙。宛先は不明。解説がついでいる。ルーゲ宛と言われている。『社会革命の綱領』

一九三六、四、一九 『神と國家』 アテネ書院 バクーニン、本荘可宗訳 解題／本書には訳者「短い挨拶」（訳者より）がついている。本序文より訳者論文「宗教的真理の価値と必要との混淆」一九二四、五東京日々新聞にバクーニンの言葉をひいてることがわかる。

邦訳「神と國家」の校注は二種の異本を海外版でもつてないので今の私にはできない。

一九三六、五、一八 大杉栄全集 第二卷 全集刊行会

「大杉栄論文集」 解題／「バクーニン研究」と題して「無政府主義の父」「バクーニンの生涯」「マルクスとバクーニン」「農民問題に就ての一考察」がのつっている。

一九三六、六、一四 激風 一号 激風社 「バクーニンの國家論（一）」（無署名） 解題／（二）以後が書かれたかどうか不明。

一九三六、七、一 労働運動四次十八号 労働運動社

「無政府主義の父バクーニンの精神」近藤憲一

「ミッセル・バクウニン」望月桂画 「バクーニンを憶う」新居格 「バクーニンを想う」石川三四郎

「彼の一一面」「バクーニンの片影」八太舟三 「バクーニンの聯合論に就て」久保謙 「神々抹殺」榮三

一九二六、七、五 黒色青年 黒色青年連盟 「無政府主義の父ミハエル・バクーニンを憶う」「バクーニンの社會思想」「バクーニンと第一インタナショナル」

「バクーニン追悼演説会」

一九三七、一 労働運動一月号 「バクーニンの印象」マラテスター

一九三七、六 または七 解放新聞五号？ 解放戦線社
バクーニンの写真をのせている（一面）。

一九三七、七、三 バクーニン主義者の活動 義文閣 エンゲルス、岡田宗司訳 解題／本書は次のとし。

一八七三年の夏のスペイン暴動に就ての覚え書、はしご書き、覚え書、附録。※なお、附録をのぞく部分は改造成社版マル・エン全集十二巻に收められている。その他マル・エンにはバクーニン及びバクーニン主義者の活動に關し、いくつかの証言があるが、それらは割愛する。もちろん眞にバクーニンのなさんとしたことを知るためには、それらを調べて理解することは必要な

ことである。しかし今我々がなさんとすることは、バクーニンがなさんとしたことではなく、我々がなさんと自ら欲することであることも知るべきである。

一九三八、七、六 小作人 三巻六号 小作人社

「バクーニン伝」松原 解題／生涯の概要

一九三八、七、一五 北極星三号 北極星社 「バクーニンと國家」ネットラウ、藤原肇訳 解題／ネットラウ

「我らのバクーニン」を一部訳出したもの。

一九二九、一、一 自由聯合新聞三号 全国労働組合自由聯合会 「專制國家・バクーニンの國家論」韻知

一九二九、二、三 神と國家（文庫） 改造社 バクーニン本荘可宗訳 解題／本書には解題がついている。な

お解題の付記に二行で、本書の翻訳を独訳及び英訳によつて行ない仏文原著には旧友栗島創成君を煩わしたこととしているだけでテキストはなにかわからない。

一九二九、二、五 労働者の叫び二号 A C 労働者連盟

「自由か強権か」バクーニン 解題／これはバクーニンの言葉をいくつか集めたものである。

一九二九、一、一 自由聯合新聞四一号 全国労働組合自由聯合会 「バクーニンとその最後」安樂寺稔 解題／本記事はライヘルの書簡によつて書かれたものである。

（藤山順訳）に「バクーニンのルーゲ宛書簡」と紹介されているものはこれである。

一九三六、一、二〇 『神と國家』 文化社 バクーニン、遠藤友四郎訳 解題／テキスト不明。Nがネットロウであることをこの当時遠藤氏は知らなかつたようだ。

一九三六、四、一九 『神と國家』 アテネ書院 バクーニン、本荘可宗訳 解題／本書には訳者「短い挨拶」（訳者より）がついている。本序文より訳者論文「宗教的真理の価値と必要との混淆」一九二四、五東京日々新聞にバクーニンの言葉をひいていることがわかる。

邦訳「神と國家」の校注は二種の異本を海外版でもつてないので今の私にはできない。

一九三六、五、一八 大杉栄全集 第二卷 全集刊行会

「大杉栄論文集」 解題／「バクーニン研究」と題して「無政府主義の父」「バクーニンの生涯」「マルクスとバクーニン」「農民問題に就ての一考察」がのつっている。

一九三六、六、一四 激風 一号 激風社 「バクーニンの國家論（一）」（無署名） 解題／（二）以後が書かれたかどうか不明。

一九三六、七、一 労働運動四次十八号 労働運動社

一九三九、一二、一 自由聯合新聞四二号 全國労動組合自由聯合会 「バクーニンのインタナショナルに関する手紙」(一) 小川記

一九三九、一二、一 黒色戦線七号 「二つの型・バクーニンとマルクス」官田昇 解題／「黒色戦線」は一九七五年、黒色戦線社によつて復刻されている。

一九三〇、一、一五 バクーニン全集三巻 近代評論社 「パリコミニンと国家概念」「ローグル及シヨー・ド・フォンの国際労働者協会員に与ふ」「革命的国際聯合の綱領規約」「ジユラ同盟への書簡、ジユラ同盟の仲間に」「ラヴェンナのナブルツチへの書簡」「サン・チミエ峡谷の労働者に対する二つの講演」「新たに発見されたバクーニンの書簡」「社会主義論」

一九三〇、一、一六 社会理想リーフレット一号 近代評論社 「バクーニン全集に就て」石川三四郎 「第三巻の内容に就て」新居格

一九三〇、一、二〇 世界大思想全集三五 春秋社 「無政府主義思想史」ネットラウ、新居格訳 解題／バクーニンの活動、出版などが説明づけられ多大に紹介されている。ただ、本書は少し誤訳があると聞いているので注意。だきあわせてソレルの「マルクス説の崩解」が載つている。これは百瀬二郎の訳。

一九三〇、二（発行されたが不明）社会理想第三輯 「バクーニン素描」新居格

一九三〇、五、一五 自由人一號 自由人社 バクーニンの似顔絵をのせている。(三ページ)

一九三〇、六、一五 自由人二號 「バクーニンを想う」由聯合会 「神は自由の賊」バクーニン 解題／本文はバクーニンの言葉を集めたもの。

一九三〇、九、一〇 自由聯合新聞五三号 全國労動組合自由聯合会 「神は自由の賊」バクーニン 解題／「神と國家」バクーニン、八太舟三訳

一九三〇、一、一〇 自由聯合新聞五三号 全國労動組合自由聯合会 「神は自由の賊」バクーニン 解題／本文はバクーニンの生涯とその思想」近代評論社 解題／「バクーニンの生涯とその思想」近代評論社 解題／「バクーニン全集」刊行のための案内書のようなもの。

一九三一、四、五 世界大思想全集四十 春秋社 「ジエームズ、ヘーゲル、バクーニン」解題／「神と國家」バクーニン、麻生義訳。テキストは一八七一年仏語稿本。なお、この当時二種の「神と國家」が流布していたことがわかる。各種文がついている。「独逸共産主義理論派の歴史的詭弁」麻生義訳 バクーニンの未定稿でわずか二ページのもの。仏文全集三巻十ページを出典とす。

一九三一、九、一〇 自由聯合新聞六二号 全國労動組合自由聯合会 「バクーニンの生涯とその思想」近代評論社 解題／新居格、序文あり。

一九三二、七、一〇 自由聯合新聞七二号 全國労動組合自由聯合会 「革命運動の父バクーニンを想起せよ」

一九三三、三、五 第一インターナショナル史(二) 改造社 ステークロフ、内垣謙三訳 解題／一部もあるが、二部はほとんどが無政府主義インターナショナルを扱つており、バクーニンとバクーニン主義者と呼ばれる人々をくわしく述べている。

一九三三、七、一〇 自由聯合新聞八二号 自由聯合新聞社 「バクーニンとマラテスタ」解題／小さな記事

一九三三か一九三四 「インタナショナルの政策」黒旗社 バクーニン 解題／「エガリテ紙」に発表された諸論文を集めたもの。パンフ。

一九四七、四、一五 社会思想史研究 和木書店 小泉信三解題／「バクーニン雑感付バクーニン年譜」が收められている。これはカーネギーの著作をもとにしたもの。

一九四八、六、一五 麦人社 「叛逆の精神」 大杉栄 「マルクスとバクーニン」

一九三二、五、二五 バクーニン全集五巻 近代評論社 「インターナショナルは何處へ行く」「ローマニアの同志に」「第一インターナショナルの分裂に就て」「サン・チミエ大会、ボロニーヤ大会決議」

一九五三、八、二〇 「自由への道」（角川文庫）角川書店

パートランドラッセル、栗原猛男 解題／本書第一節

「バクーニンと無政府主義」がある。なお、本書はす

でに戦前翻訳が出ている（未見）。

一九五三、一〇、一五 浪漫的亡命者たち 筑摩書房 E・H・カ

ー 酒井只男訳 解題／バクーニンにもふれている。

この本は後、筑摩叢書の一つに加えられ、多数出版さ

れた。

一九五四、 世界大思想全集 哲学・文芸二七巻 河出

書房 「古い友への手紙」ゲルツェン

解題／本手紙はバクーニンへの手紙（未見）。

一九五六、七、 クロハタ八号 第一インターとバ

クーニン 小川正夫

一九五九、一（推定） 合同通信ビラ 「バクーニン的ベシミズムの問題」小川正夫 解題／バクーニンの晩年のベシミズムを革命問題の上で自分のものとして考えて

いる。

一九五九、 スラブ研究三号 「バクーニンの革命思想

ーマルクス主義との対決」勝田吉太郎 解題／未見。

一九六〇、三、論争三月号 論争社 「題不明」E・H

カー、大沢正道編訳 解題／氏の「バクーニンの生涯」

による。カーの「バクーニン」を四回にわたって「論

争」誌上に連載したこと。

一九六〇、「近代ロシア政治思想史」創文社 勝田

吉太郎 解題／「バクーニンとその無政府主義」が

収められている。未見。これは後、三一書房版アナキ

ズム叢書「バクーニンI」の解説にも収められたとい

う。最近刊行されている。

一九六〇、一〇、三〇 ベルジャーエフ著作集七巻 白水社

「ロシア共産主義の歴史と意味」解題／今日、ペ

ルジヤーエフは形而上のアナキストと自らいっている

らしい。キリスト教徒としてロシア革命ではマルキシズムの側に立つた。革命後、一時教職にあつたが、そ

の宗教色ゆえに政府にきらわれ、ヨーロッパへ亡命した。本書はバクーニンをとり上げている。

一九六一、一、一 自由思想三号 審美社 「マルキシズム、自由及び国家」（二）バクーニン、遠藤斌訳

ム、自由及び國家」（三）バクーニン、遠藤斌訳

解題／自由思想二号は「マルキシスト・イデオロギー」

（バクーニン、遠藤斌訳）として出しているが上記の（一）である。同誌を私は所持しないのでテキストは

不明。

一九六一、一、一〇 朝日新聞 朝日新聞社 「百年昔一八

六一（下）バクーニン来日」木村毅

解題／（上）は「リサール生まれる」。

一九六一、五、一 アナキズム一八号 日本アナキスト連盟

「日本におけるバクーニン文献」T・E

一九六一、二、二五 バクーニンの生涯 論争社 大沢正道

解題／カーのバクーニン伝をもとにして書簡等を入れつづられている。伝に重きを置くより思想に重きを置いている。

一九六二、 バクーニン・ノート 合同出版 マルクス

志水達雄・石堂清倫訳

一九六二、 アナキズム思想史 現代思潮社 大沢正道

解題／本書は一九六七年増補改訂版が出た。

一九六三、 大杉栄全集七巻 現代思潮社 「無政府主義の父」

「バクーニンの生涯」「農民問題についての考察」「マルクスとバクーニン」他 解題／以上の

ようなバクーニン関係論文所載。未見。

一九六四、 バクーニン的悪魔（アンドレジードの無償行為） 小川正夫 解題／原稿であり、未発表のものであつて内容不明。

一九六四、一五 社会主義研究二号 由分社 「人物小伝」 解題／バクーニンの小伝もある。

一九六四、一〇、三一 ネチャーエフ 現代思潮社 ルネ・カ

ナック、佐々木孝次訳

解題／バクーニンと彼の関係を知るためににはよい。この時点では『革命家の教理問答』は誰の作かわかつていなかつたようだ。『革命家の教理問答』は日本ではいろいろ出版されている。訳もかなりある。最近、英語ではP・アグリッチが『バクーニンとネチャーエフ』というパンフを出した。これはフリーダム紙に一九七三年三回に渡つて連載したものに基づいている。

一九六五、 バクーニン 現代思潮社 E・H・カー

大沢正道訳 解題／一九七〇年新装版が出た。

一九六五、一〇、一 自由連合 日本アナキスト連盟

「不明（未見）」松田政男

一九六五、一一、一 自由連合 日本アナキスト連盟

「バクーニン・ノート（続）」松田政男

一九六五、一、三〇 黒色戦線一号 青年アナキスト連盟

「対立する人間像－バクーニンとマルクス（一）」

K・Jケナフィック、遠藤 訳

解題／青年アナキスト連盟はバクーニンの邦訳文献。資料目録を作つたようだ。テキストは「ミハエル・バクーニンとカール・マルクス」（一九四六年メルボルン）の訂正本であり、訳者が一章、二章を約六〇枚に訳したもの編集部は半分以下に抄出している。また、

「自由思想」、「三、四号」の「バクーリン＝マルキシズム、自由および国家」（フリーダム・プレス刊）は

ケナフィックの編著らしい。

一九六〇、九、一五 日本アナキスト連盟

「バクーリンとマルクス架空会見記」M・クランストン、加藤茂訳 解題／本書は Anarchy 22 1962に載ったもので、原題 A Dialogues Anarchy, An Imaginary conversation between Karl Marx and Michael Bakunin で活字化の前に BBC 放送を通じて放送されたもの。「自由連合」（日本アナキスト連盟）に連載されたものをバンフレットとしたものである。近年、H・クランストンの他の架空会見記をも集めたものが商業出版を通じて発行されている。

一九六〇、一一、三〇 アナキスト 篠摩書房 勝田吉太郎 解題／第一章をバクーリンにせなしてある。最近、教養文庫の一つに加えられた。

一九六〇、一二、一〇 世界の名著4 卷 中央公論社 「ブルーム・バクーリン・クロボトキン」—「神と國家」

「鞭のドイツ帝国と社会革命」「ローグルおよびショントナショナルの政治」解題／それぞれのテキストに関し比較的くわしい解題がそれをつけている。

一九六〇、五、一五 黒の手帳五号 黒の手帳社 「前期バクーリン研究」藤山順

一九六〇、六、二四 アナキズムI 紀伊国屋書店 ウッドコック、白井厚訳 解題／「破壊の衝動（ミハイル・バクーリン）」の項がある。これはバクーリン伝「アナキズムII」も所々でいてバクーリンもてくるが、その程度。

一九六〇、三、二七 ロシア・ナロードニキのイデオローグ現代思潮社 ニカンドロフ・ガラクチノフ、小西善次訳 解題／青年時代のバクーリンの著述には、この書

によつて「『バーゲルのギムナジウム講演』翻訳の序文」と「哲学に関する」の一いつがあることがわかる。これについての説明がある。

一九六〇、九、一〇 『社会革命の綱領』バクーリン、藤田順訳 ①社会革命の綱領 ②Michael Bakunin's Gesammelte Werke Bd3 (hrsg von Max Nettlau) Berlin 1924

最初の部分が Rainer Beer が Sozialrevolutionäres Programm ③題として Michael Bakunin . Philosophie der Tet, Köln, 1968 に収められた。付録は Philosophie に収められた ④ Prinzipien ⑤ 一部が Werke . ss . 50-53 に収められた。⑥ 社会主義 これは Federalisme . Socialisme et Antitheologie

の第一部の一部。テキバーは Michel Bakunin, Oeuvres (red. par Max Nettlau) t1, Paris, 1895, P. 36-40, 53, 58-59 である。⑦ 社会民主主義回顧の綱領 James Guillaume, L' Internationale. documents et souvenir, t. 1, Paris 1905, PI 32-133

⑧ 革命家の教理問答（ネチャーハ）解題／本書は有益なあとがきが付されており、編著もこれを充分利用した。

一九六〇、二、一五 アナキズム思想史（増補改訂版）現

代思潮社 大沢正道 解題／バクーリンとバクーリン主義に対する解説がある。氏はバクーリンのテロリズムと峰起への影響に注目している。バクーリンの革命

の理想、手段の遂行に対する矛盾はこのような形で表われている。しかし、それを思想の矛盾に転化するとしたら誤り。

一九六〇、一、一五 自由連合 日本アナキスト連盟 「解禁されたバクーリンとクロボトキン」M 解題／本記事はソ連におけるバクーリン、クロボトキン研究の状態を示している。また、文中のエヌ・ブルモアの書は近年訳された。

一九六〇、一、一五 新装版バクーリン（上・下）一冊 現代思潮社 E・H・カー、大沢正道訳 解題／本書は読みやすい書であるが、本 자체はいろいろに評価されている。訳者あとがきを大沢氏は記し、これは有益なものと記している。索引もついている。

一九六〇、一、一五 ギロチン四号 視界社 「バクーリン」久保隆 解題／本稿は「中央大学新聞」（一九七〇、四、七、第九〇七号）に掲載したものをおとんど用いた。

手を加えず転載したもの。

一九七一、二、二〇 歴史と地理 一八五号 山川出版社

「クルト・アイスナーのみた『マルクスとバクーニン』」

柴田敬二

一九七一、三、一〇 アナキスト群像 社会評論社 「アナキズムの社会的経済的基礎」バクーニン、大沢正道訳 解題／本書は編纂集。原本は「アナキストの人々」アービン・ルイス・ホロビツ（一九六四年（概要も彼が書いている。）で抄訳である。テキストについての解題は比較的くわしくついている。「学問と熱烈なる革命的事業」（ロシア語パンフ、ジュネーブ、コロコル一八七〇）「国際革命同盟綱領」（仏語、ベルリン、口語雑誌「アナキスト通報」五、六号（一九二三、十一）七号（一九二四、五）に掲載、マクシモフの編集から転載との注意書きあり。）

一九七一、六、二五 権力の拒絶 風媒社 「ドイツにおける反動——フランス人の断章」バクーニン、磯谷武郎訳 解題／本書はアナキストの著作を一つづつあつめたもの。本文はバクーニンがジユール・エリザートのペネームで「ドイツ年報」（一八四二年）第二四七号 S九八五—一〇〇一に発表された論文。

一九七一、七、二〇 アナキスト群像（四）日本へ来たバクーニン 逸見吉三

一九七一、七、二〇 アナーキー七号 アナーキズム研究会

「『国際的革命家協会』バクーニンの論文より一部の翻訳したもの」 解題メアリー五号はバクーニン特集号と思われるが未見。

一九七一、五、二四 五人の革命家 講談社 木村毅

解題／第一章は「ミハエル・バクーニン日本に来航す」

藤川健郎 解題／バクーニンの著作の手に入れやすいものを紹介している。

一九七一、七、三〇 季刊社会思想一一一 社会思想社

「バクーニンの革命理論」勝田吉太郎

一九七一、八、七 アナーキズム 白水社 アンリ・アルヴォン、佐近毅訳 解題／作者の哲学好きは哲学的にバクーニンを解そうとしている。では哲学とは何か。哲学とアナキズムの近似性には個人性と絶対性という二つのものがあると思う。しかし作者はバクーニンの中にヘーゲルの影を見て、それを更に社会的なものの中

にみようとしている。

一九七一、三 イオム一号 イオムの会 「インターナショナルの組織」バクーニン、前田幸長訳

解題／サンティイミエ社会主義普及委員会が出版した、「一八七二年人民年鑑」に収録された論文を、一九二〇年頃ジユネーブの「レヴェイユ（めざめ）」紙がパンフレットにしたものを作成した。

一九七一、六、二〇 「神もなく主人もなくI」ダニエル・ゲラン編 河出書房新社 解題／本書は数人のアナキズムに親しんだ人々のアンソロジーである。書中バクーニンもある。以下バクーニンの関係を抜いてみると、

「バクーニンの見た一八四八年二月革命」（「告白」より抜粋）「ジャン・ギヨームによるバクーニン」

「私は何者か？」（「パリ・コミューンと国家の観念」より抜粋）「神と国家」「鞭撻のドイツ帝国」より抜粋）「革命的國際結社または同胞団一八六五」（ネットラウの「バクーニン伝」より抜粋）「マルクスとの論争」（「ブリュセルの『ラ・リベルテ』誌への手紙」

「国家と無政府」よりの抜粋）「バクーニンおよびマルクスとパリ・コミューン」（「パリ・コミューンと国家の観念」より抜粋）「バクーニンと労働者自主管理」（「エガリテ」誌一八六九、九、二二より抜

萃、「ロドヴィコ・ナブルツィイへの手紙、一八七二一三」より抜粋）

※以上であるが、この中には重要なバクーニンのものが含まれている。なお、本書はダニエル・ゲランがみずからの意志に従がつて編集し、解説を書いてあり、書誌学的傾向はほとんどない。ために上記解説は少しく自ら点検して欲しい。

一九七一、七、一〇 ゲルツエンとロシア社会 御茶の水書房 外川継男 解題／ゲルツエン・バクーニン・ツルゲーネフの三人を歴史的に述べたもの。書簡等の引用がなされている。書末に参考文献あり。

一九七一、九、一 情況六二号 情況出版 「総破壊の使徒バクーニン（一）」千坂恭二

一九七一、一二 情況六四号 情況出版 「総破壊の使徒バクーニン（二）」千坂恭二

一九七一、五 情況六九号 情況出版 「総破壊の使徒

バクーニン（完）」千坂恭二

一九七一、九 展望一七七号 篠摩書房 「ネチャーエフ

ベ」バクーニン、蓮台寺首、藤川健郎共訳
解題／訳は手紙である。バクーニン著作集五巻に後異なる訳者がのせてある。（一七八号は続を掲載）

一九七一、九、二五 バクーニン著作集六 白水社 「国家

制度とアナーキー」「マルクスへの手紙」「ウーチン氏の陰謀」「マルクスとの個人的関係」「ロドヴィード・ナブルツィイへの手紙」「ルピゴーネと他のすべての友への手紙」「ドイツと国家共産主義」解題／解説を佐近毅が書いている。

一九七三、九 バクーニン著作集月報一「『バクーニン全集』頃末記」大沢正道

一九七三、一〇、二五 " 二 白水社 「バク

ーニンのシベリヤ脱出」金子幸彦

一九七三、一、二五 " 三 白水社 「バク

ーニンとスタンケーヴィチ・サークル」藤家莊一

一九七三、一一、二五 " 四 白水社 「新

版『ネチャーエフ伝説』」江川悼

一九七四、一、二五 " 五 白水社 「バ

クーニンとガリバルディ」北原敦

一九七四、四、二五 " 六 白水社 「日

本におけるアナーキズム研究受難史」菊地昌典

一九七三、一〇、二二 バクーニン著作集四 白水社

「神という幻影、現実界および人間に関する哲学的考

察 補遺一、世界の体系、二、人間－知性・意志 三

動物性、人間性 四、宗教 五、哲学、科学」「エ

ガリテ」掲載論文 一 ジュネーブ『エガリテ』紙委員

への手紙 三 新聞『フラテルニテ』 三、ジュネーブの二重ストライキ 四、組織とゼネスト 五、ロシアで六、労働者の国際運動 六、『山岳』紙とクールリイ氏 八、催眠者 八、完全教育 一〇、インターナショナルの政策十一、ジュネーブ支部総会によって採択された相統権に関する委員会報告」「『レヴェイユ』紙編集者諸君へ」解題／解説を外川継男が書いている。

一九七三、一、二〇 バクーニン著作集一 白水社 「ド

イツにおける反動一、フランス人の覚え書」「共産主義」「ボーランド蜂起記念集会における演説」「二月革命の世界的意義」「ロシアの愛國者ミハイル・バク

ーニンのスラブ諸民族へのアピール」「ツアーリズムとドイツ革命」「ロシアの状況」「スラブ諸民族へのアピール」解題解説を佐近毅が書いている。卷末にバクーニン年表付す。バクーニン著作集の解説にはしばしばバクーニンの書簡が引用されている。注意すること。

一九七三、一、二〇 バクーニン著作集二 白水社 「鞭

のゲルマン帝国と社会革命」八第一部▽「社会革命か軍事独裁か」「ロシアの同盟とドイツ人のロシア嫌い」

「ドイツ自由主義の歴史」八第二部▽「序、パリ・

コミュニケーションと国家の概念」「ドイツ共産主義者教条学

派の歴史的詭弁」「神と国家（一）」「神と国家（二）」「反マルクス論」解題／外川継男が解説を書く。

一九七三、一二、三一 バクーニン伝（上・下）二冊 三一

書房 H・M・ビルモーヴァ 佐野努訳

解題／解説を佐近毅が書いている。これは比較的克明に書いてある。本書はソ連で書かれたものであり、めずらしい写真を多数含んでいる。なお、E・Hカーレのものと類似する所が少しくある。これは共に両者がステクロフのものを利用しているためだと思う。というのは、一次資料を用いるとともに豊かに書ける部分が同じように表現されている所があり、しかもその資料は容易に手に入りやすいものなのだから。

一九七四、二、五 バクーニン著作集五 白水社 「連合主義、社会主義、反神学主義」「國際革命結社の諸原理と組織」「國際同胞団」「國際革命結社の綱領」「ロシア軍将校へ」「セルグレイネチャーエフへの手紙」

「付、革命家の教理問答書」解題／佐近毅が解説を書いている。

一九七四、四、一 現代思想一一四 青土社 「バクーニンとマルクス」土方直史

一九七四、五 アナーキズム研究会

「カーレバクーニン」像をめぐって」今井順子

「バクーニンと秘密結社」北原敦
一九七五、一、三〇 ピク一號 「パリ・コミューン（1）

バクーニン、石川玄造訳 解題／（2）以後は訳されなかつた。というのは、石川氏はこれが初訳だと思つて訳し始めたのだが訳が出ていたからである。この訳は三一版「バクーニン」に江口幹の訳ででている。

一九七六、四、一五 リベルテール七五號 リベルテールの会 「バクーニンと現代革命（1）」P・アヴリッチ

一九七六、五、一五 リベルテール七六號 リベルテールの会 「バクーニンと現代革命（2）」P・アヴリッチ

一九七六、五、一五 リベルテール七六號 リベルテールの会 「バクーニンよりS・ネチャーエフへ」

一九七六、五、一五 リベルテール七六號 リベルテールの会 「バクーニンと現代革命（3）」の「革命的

解題／解説をはしもと氏が書いている。本文は「展望」「選集」に載つたものと同じ。新訳。

発行日不明 組織 大阪A研 バクーニン、原五郎訳

解題／近代評論社版「バクーニン全集3」の「革命的

国際聯合の綱領規約」の後半部の復刻。発行は一九七〇年頃と思われる。

B·O·O·K·S 一三三二号 「牡蠣と芍薬」秋山清

解題／未見。バクーニンについて書いたものか？

高津渡 建設者同盟に関係した左翼インテリ。一九二六年二月九日、二七才で病死。彼の獄中の「革命歌」に次の二節がある。

三節 ああバクーニンとらわれて 三寸の舌欧洲の

三帝国や今いかに 三帝国を倒さんと

彼れ獄窓に叫びしが ああ玉杯の節

（群馬県社会運動物語 富沢実 一九六八、労働旬報社）

石川啄木 詩「墓碑銘」はバクーニンの名を記している。

林 倭衛 一九一六年作「サンジカリリスト」（絵画）は

ツルグーネフ 彼の作品中の人物で雄弁な情熱家、家庭的でない個人主義者などはいくつかバクーニンをモデルにしたものといわれている。長篇「ルージン」のルージンなどはその例であ

草野心平 彼の詩には「日本へ来たバクーニン」というのがあるらしい。これの載つているものは本

人もわからないということである。

バクーニン像である。

る。

ゲルツエン 彼の著作「ロシアにおける革命思想の発達について」はバクーニンへの献辞をのせている。本書は岩波文庫で発行されている。

一九三六、七、一 午後七時より、本所長岡町不二館にバ

クーニン五〇年記念演説会が開かれた。

弁士は約四十名。

一九三六、七、一 「バクーニンを想起せよ」と題するチラシを関東黒色青年連盟は市内一斉に配布した。

T・ユー 一九七〇

一九〇七年、パリで「新世紀」が発行された。これは、反伝統に立脚しており、バクーニンにもしばしば言及があること。パリの図書館には当時の書籍が保管されているとのことだからいつか我々もそれらを手にすることができるだろう。

三、「毛沢東」ロバートペイン 一九六七 角川文庫

一九一八年、毛沢東は二十五才。ロシアの無政府主義者バクーニンの短い論文の翻訳をみつけ読んでいる。彼はまだ無政府主義に接していた。

四、「支那現代思潮」松井等 一九二四

一九二〇年、政府は「バクーニン伝」等の無政府主義社会主義文献を禁書とした。この政府とは日本政府か中国民国政府かわからない。ただし、「新評」一九七二年十二月号より、名古屋地方の極秘文書として支那より伝播する文書の取締に関する件が報告されている。これは一九二〇年五月一八日付である。しかしその八四例の内、表示された一九例には「バクーニン伝」は記されていない。

五、「民衆」第十一期十二期 一九二六（？）

本雑誌は後半しか見ることができないが、上海、民衆社より発行されたもの。バクーニンについてがほとんど

△付録2 V 中國におけるバクーニン

一、「清末政治思想研究 小川秀美」一九七九

一九〇三年四年頃、ロシア虚無党的ことがさかんに宣伝されたらしい。留学生の月刊誌「江蘇」「浙江潮」また、「蘇報」などに載つてゐること。

二、「中國のアナキズム運動」R·Aスカラピーノ、G·

を占めている。バクーニン伝と思われるもの、バクーニンの政治革命観、パリ・コミューン（バクーニン）、バクーニンとマルクスの交渉がのつていて、

六、「バクーニン」 南開大学歴史系編 一九七一

本書は北京で発行された歴史知識読物の一冊で六〇ページ程の小冊子である。反アナキズムの立場。

付記

現在、香港の紅黒書店はバクーニンなどの著作を発売しているという。連絡はしてあるがまだ返事はない。韓国のバクーニンは僕にはわかることがなかつた。まだハングルが読めないのでなんともしようがない。

△あとがき△

結果として著しく恣意的になつてしまつたようにみえる。載らなくてはならないもの、例えば「クロハタ」か「自由連合」あたりに載つたであろうバクーニンやいろいろの人々の「日本へ来たバクーニン」など載せられなかつた。これは僕が持つていないから。

小さな記事と著作とを同じく扱うことに問題があるかもしれないが、これもしかたがない。
他にスラブ研究などの雑誌もみられなかつた。

